



39REPORT

サンキューレポート 2010.03



いつもありがとうございますファンドをご支援いただき誠にありがとうございます。
年2回発行の「39レポート」今回は2010年3月版をお届けします。
ぜひ、最後までお読みください。

目次

- P1-2 日本の試練・日本のチャンス
- P3-4 運用状況のご報告（2009.9～2010.2）
- P5-6 直販状況（2009.9～2010.2）
- P7-8 新プランのご案内『分けて買い』
- P9-12 座談会『投資環境を整理する』

ありがとう投信

Arigato Asset Management Inc.

エグゼクティブアドバイザーの村山からのメッセージです。



『日本の試練・日本のチャンス』

余り語られていないことですが2008年に起きた世界的な信用バブルの破裂以後世界的に顕著になってきた現象があります。おそらくこれからその現象はますます明らかになって誰の目にも認識されるようになると思います…と予言師めいたことを申し上げましたが、なに、たいしたことではありません。皆さんすでに良くご存知のことです。その現象とは2つあります。

まず第一、世の中の変化が早くそして激しくなってきたこと。これは皆さんが日常の会話でも良く話されているので当たり前だと思われるでしょうが、今回の景気悪化とそこから景気回復に変化の早さと激しさが顕著に出始めています。今回の金融危機の震源地である米国の状況からそれを見てみましょう。米国の実質 GDP は2009年の1-3月期には年率マイナス 6.4% 落ち込みました。日本のように人口が減少している社会と違って米国は移民もあるので人口は毎年1%近く増えています。したがって経済は成長して当たり前。大体3-4%の成長を前提として国民は考えています。それが一気に6%を越えるマイナスになったのですから大ショックです。



ところが去年の10-12月期になると 5.7%まで急回復しました(この数字は修正される可能性があります)。アメリカの失業率は去年の後半に 10%を大きく越えましたが今年になって 10%を割り込みました。もう失業率のピークは過ぎたと断定するのは早いのですが、もしすでにピークを打ったとすると景気がプラスに転じてから失業率がピークを打つのに約6ヶ月しかかかっていないことになります。今回の前の2回の景気後退時にはこれが1年半前後かかっていたのですから極めて早いことになります。景気変動が激しくなって豊かさを実感している余裕がなくなってきました。アメリカの景気について今後予想されるのは30年近く続いた比較的安定した中成長ではなく変動が大きい低中成長の道だと思います。

もうひとつの現象は、物事の根本が問い直されることです。これも海外の例を見るとわかりやすいです。例えば欧州の共通通貨になろうとしているユーロ。ご存知のようにこれが揺れています。ギリシャのように財政規律の緩い国が参加を許されていてしかも財政規律を守らなかった場合の罰則がありません。「10年前に決めたことをいまさら後悔することになるとは…」とヨーロッパの国々も思っているでしょう。何とか弱い国の財政危機を解決しユーロの弱点を克服しなければなりません。結論としてどのような方策を採るかはまだわかりませんが欧州共同体の理念を根本から見直さざるを得ないと思います。

アメリカはどうでしょうか？この30年ほどアメリカの景気を引っ張ってきたのは消費と借金です。製造業には力を入れずサービス産業、特にITと金融業を中心に据えてきました。

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投資株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

ご存知のように今回の金融危機の根底には過剰な借金と消費とそれをもたらした金融至上主義がありました。いまや消費を抑え借金を返済しなければならなくなりました。金融業を拡大すれば経済が拡大し続けるという幻想も失われました。何より巨額の財政赤字を抱え込んでしまいました。それではどうやって豊かさを維持して拡大してゆくのか？根本的な問題に直面することになりました。どうでしょうか？世界的に物事の根本が問われる時代になったと思われませんか？

いま申し上げた変化の時代には実は先駆者がいます。誰でしょうか？

もうお分かりかもしれませんが私たち日本です。



景気を良くしようと金利をゼロにして財政赤字を出して刺激し続けてきました。失われた10年(15年あるいは20年?)です。景気がよくなるのか？と期待するのですがまた逆戻りしてがっかり。その繰り返しではなかったでしょうか？

いま世界の成熟国の多くが恐れているのが「日本の失われた10年」を自分たちがこれから経験することです。先ほどの2番目の点でも日本は先駆者です。ご存知のように日本の財政赤字は世界の国々でも突出して高い。政権交代しても減るところかドンドン拡大しています。つまり根本的な問題を抱えているのです。問題点の中心は財政赤字の金額や比率というよりも財政赤字をだらだら続けているだけで一向に国の活力向上に結び付けられない非力さと根本から問題点に取り組もうとしない逃げの姿勢にあります。先ほど申し上げた欧州やアメリカの問題点を彼らがかぐらかし続けるとしたらまさに日本の後を追うことになってしまいます。

さてこれからどうなっていくのでしょうか？

未来のことですからどうなるのかはつきりはわかりません。しかし問題点はハッキリしています。ここでは2つの点だけ申し上げたいと思います。

まず世界の多くの成熟国が大きな財政赤字を抱え込んでしまったこと。これは金融危機が大恐慌に進むのを防ぐために必要でした。しかしこのままずると借金を抱えて無策に時を過ごせば借金が借金を呼んで首が回らなくなります。国も地方も財政規律を保つために政治的に大きな努力をすることは世界の共通の常識になると思います。それが出来なければ市場の痛撃を食らうことになります。

もうひとつは財政支出を絞る一方で経済を活性化させて成長を取り戻すことがどうしても必要になります。ここまで膨れ上がった赤字は増税だけでは減らせません。

日本はこれらの問題に直面した先駆者として、問題解決に真剣に努力してきませんでした。それでも何とか生きてきたのは過去の世代の残してくれた蓄積のお陰です。いまや世界の他の成熟国と同じラインに立って困難な宿題を解かなければならなくなりました。

これからが本当の日本の試練が始まると思います。同時にそれに真摯に取り組めばとても大きなチャンスにもなると思います。頑張れニッポン！

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投資株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申度ください。

[運用状況のご報告:9月~2月]

2010年2月末までの6ヶ月間の成績は、以下のとおりです。

ファンド名	09/09/01	10/03/01	騰落率
ありがとう	8,812	8,423	▲4.4%

ファンド名	09/08/31	10/02/26	騰落率
さわかみ	12,800	12,259	▲4.2%
トヨタグループ	10,340	8,979	▲13.2%
社会貢献	8,914	8,673	▲2.7%
TMA長期投資	7,736	7,913	+2.3%
NCヨーロッパ	7,412	7,398	▲0.2%
NCエマージング	8,455	8,589	+1.6%
Alamcoハリス	6,332	6,288	▲0.7%
コモンズ30	—	10,123	—

	09/08/31	10/02/26	
日経平均	10,492.53	10,126.03	-3.5%
TOPIX(東証株価指数)	965.73	894.10	-7.4%
MSCI AC World Index(世界)	111.122	117.824	+6.0%
MSCI World Index(先進国)	2,583.697	2,718.258	+5.2%
MSCI Emerging Markets	310.488	348.340	+12.2%
ドル円為替	93.010	88.850	+4.5%

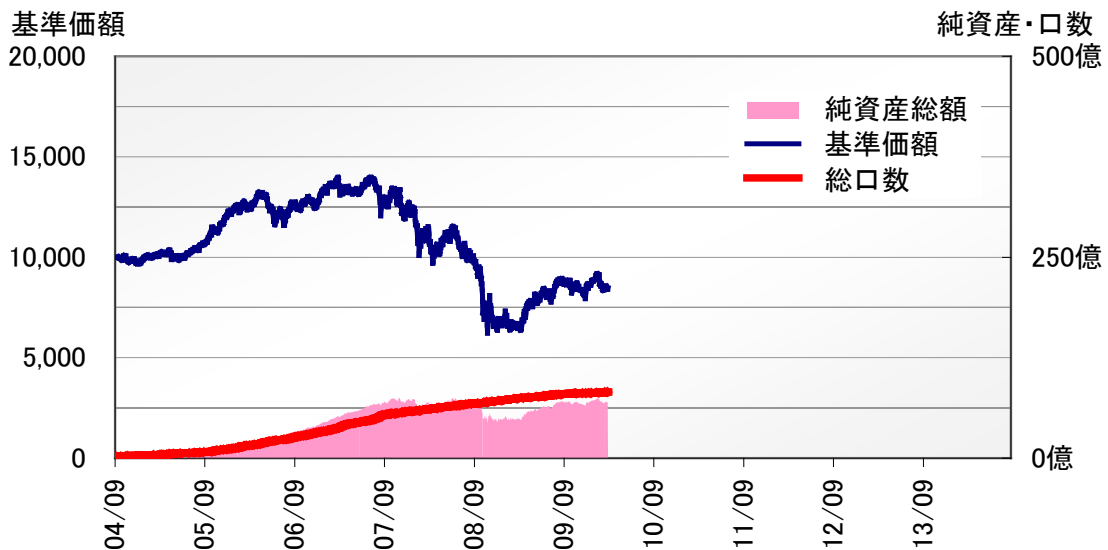
MSCI : モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル。世界で広く使われている株価指数を算出している会社です。ここではドルベースの net 指数を使用しています。

この半年のありがとうファンドは、日本株の相対的出遅れ、特にトヨタショックが主な原因となって苦戦を強いられました。その他のファンドの成績がしっかりしていたことや、安全運転のためにキャッシュポジションを厚めに持っていたこと等から TOPIX ほどには基準価額は下げませんでした。ご迷惑をおかけしていること申し訳なく思います。

この間、NCヨーロッパファンド・NCエマージングファンド・Alamcoハリスについて少しずつ継続的に買い増しを行いました。また、コモンズ30 ファンドを10月に新たに組入れ、これも徐々に組み入れていっています。

おかげさまで、皆様のありがとうファンドの総口数は、設定以来2010年2月まで66ヶ月連続で純増を続けています。

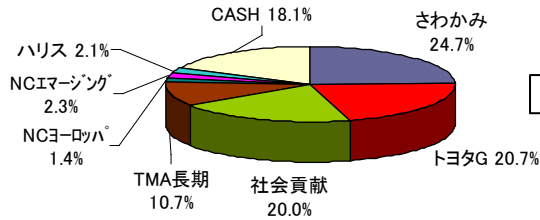
■ 基準価額・純資産総額の推移



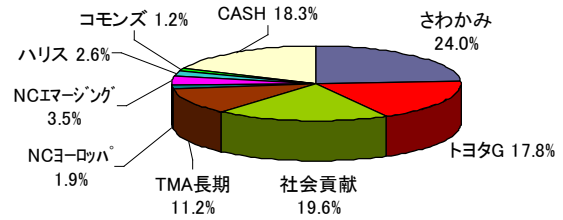
このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投資株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申してください。

さて、半年前の39レポートでは「日本株と新興国を中心とした海外株の比率がおおよそ6：3程度となる配分に向けて、徐々にシフトしていくような運用を中長期では想定しています」と申しあげました。また足下では「新興国投資とありがとうファンド」というテーマのセミナーを各地で開催しています。では、実際の組入れ状況はどうなっているのでしょうか。半年前と直近とを比較してみましょう。

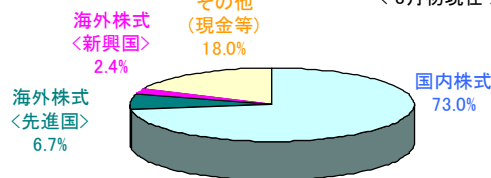
■組入れファンドの比率 <8月末現在>



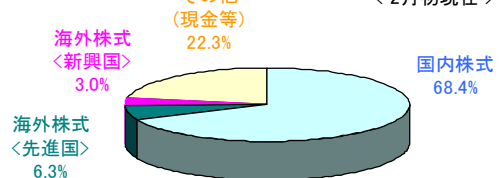
■組入れファンドの比率 <2月末現在>



■ありがとうファンド全体(各ファンドの合計)の資産配分状況 <8月初現在>



■ありがとうファンド全体(各ファンドの合計)の資産配分状況 <2月初現在>



組入れファンドの比率などは、パッと見た目にはほとんど変わっていないように見えます。でも、よく見てください。円グラフの左の方、NCIマーキングを中心に海外株式の比率が少しずつ上昇しているのがお分かりいただけますか。(下の各ファンド合計の資産配分状況とのズレは、データが揃うタイミングの関係から約1ヶ月のタイムラグがあるためです。)

「それでも海外株式は未だ1割弱、3割になるには今のペースでは一体いつになるやら…」そう思われるかも知れませんが、それでいいのです。私たちが考える『中長期』というのはそれぐらいのスパンの話であって、半年後に見てみたら中身がガラッと変わっていた、などというような運用は基本的に考えていないのです。

世の中の動きを見てみても、毎日の生活の中では少しずつしか変わっていない、あるいは全く変わっていないようでいて、ふと気がつくと数年前とは様変わりになっていることに驚いたりしますよね。こういう深く静かに流れる潮をとらえることを目指すのが私たちの長期投資であって、表面のちょっとした波の動きでバタバタすることは考えません。

ところで、上の円グラフの半年前との比較では、もう一つ面白い点があります。「組入れファンドの比率」ではキャッシュポジションが横ばいなのに、「全体の資産配分状況」ではキャッシュが4%以上も増えていることです。データ取得時点のズレ以上のちょっとした変化が見て取れます。

これは、ありがとうファンドとしてはキャッシュポジションをキープしたのですが、各組入れファンドの中でキャッシュを少しずつ増やしたということの意味しています。大きなリスクを取って大きな値上がりを目指すよりも値下がり小さく抑えたい、そういうありがとうファンドのスタンスに呼応するような運用が、各組入れファンドでも実行されている現れといえるでしょう。

ありがとうファンドが「お客様に安心して持っていていただけるファンド」であるように、私たちはこれからも一層精進してまいります。

(ファンドマネージャー 岡 大)

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投資株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

《直販状況》

(2009年9月～2010年2月)

この半年を振り返ってみますと、昨年9月に政権交代が起こり、自民党政権時代の政策が大きく転換されました。景気の先行きが依然不透明な中、将来への経済成長戦略の道筋が見えないといった声も高まっており今後の動向からは目が離せません。

また、再建の行方が注目されていたJAL(日本航空)が、今年1月に経営破たんし、会社更生法の適用を申請しました。ようやく一つの結論が出て、今後は企業再生支援機構の支援のもとで抜本的な再建の道を歩むことになりました。

政権交代もJALの経営破たんも一昔前はまったく想像のできないことでした。今まで常識だと思っていたことが通用しなくなってきているのかもしれない。

世界が大きく変化していく中で、日本だけ立ち止まっているわけにはいきません。私たち一人一人が変化を恐れずに前に進んでいく必要があるのではないかと思います。

さて、この半年間の直販状況について以下の通りご報告を申し上げます。

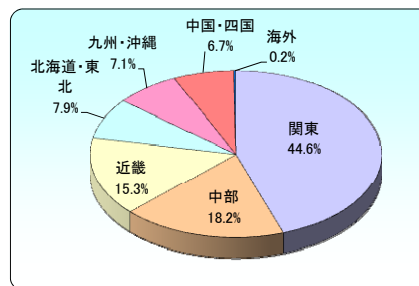
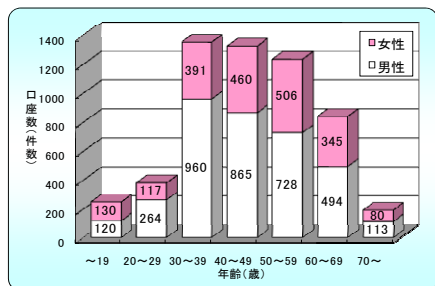
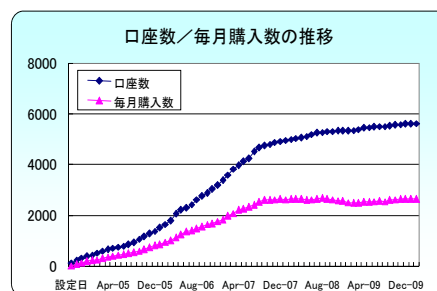
<販売状況>

まず、ありがとうファンドの設定、解約状況ですが、引き続き2004年9月の設定以来資金流入がずっと継続しています。資金流入の主な要因は、毎月購入プランを利用して自動積立されている方の購入資金です。

次に、口座開設状況ですが、この半年間での純増数(口座開設から閉鎖分を除いたもの)は+87件で口座数は5,613口座となりました。

年代別にみると、今までの傾向と変わらず、30代、40代、50代の順に多くなっている一方、20代の口座数は伸びておらず横ばいの状況です。

地域別に見ると関東が約45%で最大で続いて中部が約18%、近畿が約15%と続きます。



このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投資株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申度ください。

また、毎月購入プランの申込者は 2,623 名で割合は 46.7%です。購入金額別でみると 1 万円以上 2 万円未満の方の割合が約44%と一番多く、1 万円未満の金額の方も全体の約 16%を占めております。最近の傾向としては、昨年 2 月に 1000 円から購入できるようにしたことの影響もあって、毎月購入プランを新規で申込んだり、再開したりするお客様が多くみられます。

お客様が将来の目標を見据えて、ドルコスト平均法の観点から、こういう時こそ毎月購入プランを継続した方が良いと考えているからではないかと思われます。

<販売活動状況>

この半年間の販売活動状況ですが、まず昨年 10 月に全国 3 都市(神戸、名古屋、東京)でホルダーズミーティングを開催しました。ホルダーズミーティングでは、ありがとうファンドの運用報告だけでなくグループディスカッションでお客様と直接お話しすることも出来ました。とても有意義な会だったのではないかと思います。参加できなかったお客様のためにホルダーズミーティングのダイジェスト動画をホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。

また、昨年 10 月 26 日に『コモンズ 30 ファンド(適格機関投資家用)』の組み入れを開始したことに伴う運用報告会を 11 月と 12 月にそれぞれ大阪と東京で開催しました。

今年の前半は、『新興国とありがとうファンド』というテーマで全国セミナーを開催していく予定です。2 月に横浜で初回セミナーを開催しましたが大変好評でした。3 月に大阪、4 月に盛岡、5 月に広島、6 月に新潟で開催を予定しておりますので近くにお住いの方は是非ご参加下さい。

<サービス状況>

2010 年 1 月からの税制変更に合わせて特定口座(源泉徴収あり)を選択しているお客様について、ファンドが分配金を出した場合、特定口座内に受け入れをすることができるようになりました。これにより今後は特定口座内でファンドの損失と分配金の損益通算をすることができるようになります。また、2 月からはありがとうファンドや資産運用に関するご質問やご相談などを、通話料金を気にせずできるように、お客様窓口フリーコール(Tel0800-888-3900)を導入致しました。お気軽にお問い合わせ頂ければと思います。

弊社は、今月 3 月 9 日に創立 6 周年を迎えます。これを記念して新しく『分けて買いプラン』を始めます。これは、まとまったお金を複数回に分けて投資されたいお客様向けのプランです。毎月購入プランと同様に毎月口座振替で自動購入するため振込手数料もかかりませんし、購入タイミングを自分で考えなくても済みます。詳しくは次ページ『新プランのご案内』をご参照下さい。

最後になりますが、今後もお客様のニーズに応えられるように努めて参りますので、ご意見・ご要望がありましたらどんどんお寄せ下さい。

今後ともご愛顧賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

カスタマーサービス部長 長谷俊介

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投資株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申してください。

創立
6周年記念

《新プランのご案内》 『分けて買いプラン』スタート

この度、創立6周年を記念して新プラン『分けて買いプラン』を始めます。このプランは、まとまったお金を何回かに分けて投資したい方向けのプランです。

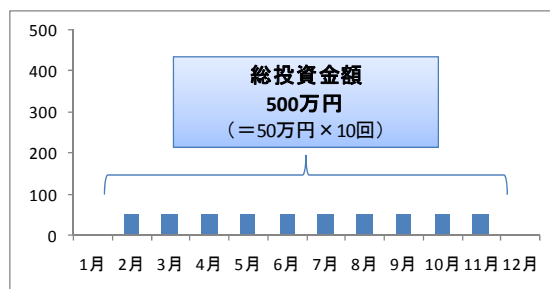
余裕資金を投資したいけどスポット購入で一括購入するのはいつ買ったらよいかタイミングがわからないし、ちょっと怖い。そんな方のためのプランです。

仕組みは簡単です。投資したい金額を決めて頂いて、分けて買う回数を5回、10回のいずれかから選択します。総投資金額を回数で割って求められる金額が1回あたりの買付金額です。

毎月1回購入していき、指定した回数(月数)購入※します。

毎月の購入スケジュールは毎月購入プランと同じになります。

(6日引落しで8営業日後に購入)



※ただし、資金不足等の何らかの理由で引落しが出来なかった場合は、購入回数が指定した回数に満たなくなる場合があります。

通常のスプレッド購入と比較して、この『分けて買いプラン』の特長(メリット)として以下の3点が挙げられます。

『分けて買いプラン』の3大特長

- 特徴1 時間を分散して投資できる
- 特徴2 自動購入だからタイミングを気にしなくてもよい
- 特徴3 振込手数料がかからないからお得である

今までありそうでなかったプラン、それが『分けて買いプラン』です。

次のページでは『分けて買いプラン』の具体的な活用例を示したいと思います。

<具体例>

Aさん（60歳、男性、定年退職後1カ月、投資予定金額500万円）

38年間務めた会社をつい先月定年退職をしたAさん。退職金が支給されたが、そのうち当面使う予定のない余裕資金500万円をありがとうファンドに投資して運用したいと考えていた。ありがとうファンドの購入方法はいつでも好きなタイミングで購入できるスポット購入と毎月一定額を積立でいく毎月購入プランがある。Aさんはもう定年退職したから毎月積立は自分には合わないと考えていた。

Aさん：「好きなタイミングで購入するのは色々と考えてしまって難しいし、振込手数料がかかるのはもったいない気がする。なんとかならないかね。ありがとうさん」

H社員：「Aさんのような声をたくさん頂いており社内で検討した結果、この度、業界初の『分けて買いプラン』というものを始めました。これはAさんのようにまとまったお金を投資したいけれど、タイミングがわからなくてスポット購入するのに躊躇しているお客様にぴったりのプランです」

Aさん：「『分けて買いプラン』？それはどういうものなんだ。詳しく教えてくれないか」

H社員：「その名の通り、まとまったお金を複数回に分けて投資するプランです。まずは総投資金額を決めて頂きます。次に、回数を5回か10回のいずれかを選択して頂きます。総投資金額を回数で割った1回当たりの金額を毎月指定日に口座振替で引落して買い付けます。指定された回数だけ引落しを自動的に行って買い付けていきますので、振込手数料もかかりません。タイミングも気にしなくてよいし、時間も分散して投資できます。まさに一石二鳥のプランです。」

Aさん：「なかなかいいじゃないか。『分けて買いプラン』気に入ったよ。早速申込みたいけれど、どうしたらいいのかね？」

H社員：「申込用紙がありますのでお送りいたします。ご記入の上、ご返送下さい。『分けて買いプラン』のスケジュールは毎月購入プランと同じになります。初回の購入は受付後1~2ヶ月後になります。」

Aさん：「わかった。じゃ、よろしく頼むよ。」

いつでも購入できるスポット購入と毎月積み立てていく毎月購入プランに、この『分けて買いプラン』が加わることによってありがとうファンドの購入方法の幅が広がりました。

ご興味のあるお客様は弊社カスタマーサービス部までご連絡下さい。

 03-5807-9710  0800-888-3900
受付時間 9:00~17:00（土日・祝日を除く）

ありがとう投信

Arigato Asset Management Inc.

座談会 『投資環境を整理する』

経済危機から財政危機へ ～問題の所在は民間から政府へ～

岡 まず現在の投資環境の整理からしてみたいと思います。ちょうど一年前、世界経済は大恐慌の入り口にありました。各国政府が総力を挙げてマクロ経済政策を推し進め、今現在は景気は回復軌道に乗りつつあります。キナ臭い問題は多々あるにせよ、当面の危機的な状況は去ったというのが世界的なコンセンサスになっていますね。私たちの見方もそこに立っています。

川元 そうですね。ただし、事の本質は問題の所在が民間から政府に移っただけだとも言えますよね。恐慌に陥らせないため支払ったコストが顕在化しています。PIIGS(注:ポルトガル[Portugal]、イタリア[Italy]、アイルランド[Ireland]、ギリシャ[Greece]、スペイン[Spain]の5カ国)をはじめとする欧州のソブリンリスク(注:国家の破綻リスク)なども新たな問題としてクローズアップされています。



村山 各国の財政出動のおかげで世界経済全体として信用力が戻ってきたということは確かでしょう。社債発行の状況を見る限りでは、民間部門の借金の問題はそれほどない。ただアメリカの個人、国は借金がとにかたまっている。ここは相当厳しくなっていくだろうね。ヨーロッパも厳しいでしょう。

岡 そうした中、元気なのは新興国ですね。金融危機の影響もさほど受けていません。彼らはお金を借りる意欲が十分あるので、借金をしてでも成長を高める路線を突き進んでいます。

不揃いになる世界 ～二極化する経済～

川元 現在の環境の整理ということと言うと、新興国の中でもはっきりと2つに分かれた感じがします。お金を借りることができる国とそうでない国に。その中で勢いのある国が直近の投資対象として良いかということ、ちょっと去年買われすぎましたね。少しバブルの様相を呈しています。

岡 それに比べると日本は買い安心感がありますよね。出遅れてもいて割安です。幸いユーロ圏のような問題も抱えていないですし。二極化という意味では、日本は良い

側のグループに入っているという認識で良いでしょうか？

川元 国内では皆信じないでしょうが…。海外投資家の注目度は高いと思いますよ。

村山 世界は多極化しているのは確かだね。リーマンショック前までは、うまく一つの良い方向に向かっていただけ、それが今はみんなバラバラ。アメリカはアメリカ、ヨーロッパはヨーロッパで問題がある。金利が上がる方向になると揃って上手くいなくなるもの。一方で共通する問題も出てきた。財政赤字の問題だね。なんとかして財政赤字を減らさなければならない。それには成長が必要になる。

川元 経済成長となると、日本では長く忘れられています。インフレの問題が出てきますね。財政赤字とインフレの可能性もとても大事な問題です。というか、これから何年も問題になり続ける点だと思います。

村山 一方で多極化、一方で目標が揃っている。今がまさに過渡期にある。そうした中、目標がはっきりするとようやく動き出すのが日本のパターン。世界中がやるとなるとやる。それが日本。

岡 そういう意味でも、私たちは現在は日本株にフォーカスしたポジションをとっています。

村山 そうだね。今後、ヨーロッパでくすぶっている問題が、どういう展開を見せるのかわからないし、多額の財政負担の問題もある。もっと根本的な問題を抱え込んでしまっているのかもしれない。米国はリバウンド景気の中にあるけれど、たぶん息切



れしてくるだろう。その後どうなるかが全く見えていない状況にある。良くない良くないという話ばかりの中で、先進国の中では相対的に日本は悪くないんじゃないかな。さらにプラスの面を見てみると成長の余力があるアジアに最も近いというのも大きな強みだね。アジアが求めているのはとりあえずモノ。

岡 プラスの上乗せということで日本は期待できると思いますね。日本の位置づけというのは手放しですごく良い状況にあるとは言えないけれど、改善の余地、そして余力も山ほどある。企業体質も経済危機を経てさらに強固なものになっています。それが無い国に比べると相対的に良い位置にいることは確かですよ。

川元 そういうポテンシャルに海外の投資家も再び注目しています。一方、成長が加速している新興国などでは金利を上げ始めて成長の安定化を図り始めています。マクロの金利動向はどう見えていますか？

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投資株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

村山 強い新興国の消費動向を見ると確実に生活水準が向上しているし、それに伴ってモノの値段が5～10年かけて徐々に上がっていくだろうね。人間は一定の水準に達するとそれを維持しようとする。昔の生活には戻れないという性質がある。こうした状況の中で金利がこのまま低いままであるはずはない。日本もいずれ金利を上げざるを得ないでしょう。国としての借金が多い国は5～10年というタームで考えるとかなり問題になるだろうね。それまでに世界経済が成長路線に移っている必要があるね。

川元 日本の成長路線ももう少しはっきりと見えてくる必要がありますね。今はまだ『大きなポテンシャル』にとどまっていて、国全体を引っ張っていく新しいリーダー役は誰なのか、どういった産業なのか模索中、という感じがします。こういう時には、政治のリーダーシップも発揮できる余地はかなりあると思うのですが…。

エマージングの成長力を取り込む

岡 成長路線ということでは、長期的にはやはりエマージングの成長はリスクをコントロールしながら取り込んでいかなければならないと思っています。二極化の話で言えばもちろん勝ち組を選別しますが、さらには国を選別するというよりは企業の選別をすることで選別の精度を高めたいというのが私たちのスタンスです。



川元 新興国というと今はETF投資がはやりですが、そういう投資の仕方とは一線を画しますよね。ありがとうファンドは選別のプロセスを大切にして投資をしていく方向を打ち出しています。リスクに目をつぶってリターンの高さを競うのではなく、きちんと良い企業を選別してベースでもっている高い成長力をとってもらいたいということです。

岡 アクティブ運用の話で言うと、マネージャーをセレクトして資産を振り向けるという意味では私たちと同じような立場にありながら、年金資金等の運用はかなり硬直的に、パッシブ的にやっているようですね。どの資産に何%と固定していたり。資金を持て余しているというような話も耳にします。

川元 私も経験がありますが、機関投資家は説明のしやすさで運用方針が決まってしまうようなところもあります。A資産何%、B資産何%…。説明しやすければ納得も得られやすいから、みんなそちらに流れる、つまり意思決定が硬直的になりやすい

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投資株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

んです。それに比べて、私たちは臨機応変に投資家本位の決定ができますよね。

岡 もちろん私たちもお客様に状況をきちんと説明しなければなりません、説明するための運用をしているわけではありませんからね。こっちの方が説明しやすいからという投資は一切しないということです。ありがとうファンドはダイナミックなアロケーションを考えているファンドです。先のことを考えて動くので、その時々だけ見ると納得しにくいときもあると思います。

川元 自分のお金を運用して、慎重になればなるほど普通はそうなんですよ。

岡 10年、20年すれば確固としたモデルができあがってくると思います。機関投資家の運用にとって良いモデルになることを目指したいですね。「そんな硬直的にやっている場合ですか？」と言えるような存在になりたいです。

安定を保ちながら・・・

村山 今後のポートフォリオの方向性について触れてみようか。

岡 そうですね。今後ありがとうファンドは、安定を保ちながらエマージングの比率を少しずつ増やしていきます。徐々にポジションを組み変えながら、時間をかけてその時々に合わせてポートフォリオを組んでいける。これはお客様の質の高さあってこそできることなんですよね。短期の資金の出入りに振り回されては、こんな風にダイナミックなアロケーションはできない。その点、ありがとうファンドはお客様の質の高さ、資金の性格に恵まれていると思います。

村山 本当にありがたいことだと思います。

岡 安定を保ちながら時間をかけてというのが大事なポイントです。長期投資はよく船の航海にたとえられますが、船って停まっているときにはとても不安定なんです。でも、前に進んでいるときはものすごく安定します。ありがとうファンドは、そういう安定をめざさなければならないと思っています。

(終)



投信企画運用部ファンドマネージャー
(左から) 村山甲三郎、岡大、川元由喜子

2010年3月 弊社オフィスにて

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

◀編集後記▶

今回の「39REPORT」はいかがでしたでしょうか？

『ありがとうファンド』はこれからも皆様と二人三脚で歩んでゆきます。

本レポート、ありがとう投信、『ありがとうファンド』にご意見、ご要望等ございましたら弊社までお寄せください。

今後ともよろしく願い申し上げます。

(ありがとう投信株式会社)

■ 『ありがとうファンド』の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／ファンド・オブ・ファンズ
信託期間	無期限
決算と収益分配	毎年8月31日(休業日の場合は翌営業日)
お申込単位	1,000円以上1円単位
お申込価額	取得申込受付日の翌々営業日の基準価額
ご解約単位	1円以上1円単位
ご解約価額	解約請求受付日の翌々営業日の基準価額
委託会社 (販売会社)	ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号(社)投資信託協会会員
受託会社	NCT信託銀行株式会社 登録金融機関 関東財務局長(登金)第25号(社)日本証券業協会会員

■ 『ありがとうファンド』にかかるリスク

主なリスク 「価格変動リスク」「流動性リスク」「ビジネスリスク」「為替リスク」「カントリーリスク」「ファンド資産の流出によるリスク」

当ファンドは、ファンドオブファンズであり、国内外の投資信託証券などの値動きのある証券に投資します。また、外貨建て投資信託証券に投資する場合には為替の変動もあります。なお、投資信託証券の組入証券の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、**損失を被り、投資元本が割り込むことがあります。**ファンドに投資することに伴うリスクはお客様のご負担となりますしファンドへの投資による損益も全てお客様に帰属します。また**元本及び利息の保証はなく預金保険の対象でもありません。**

■ 『ありがとうファンド』にかかる手数料等

申込手数料	手数料はありません。
換金(解約)手数料換金	手数料はありません。
信託財産留保額	信託財産留保額はありません。
信託報酬	ファンド純資産総額に年0.945%(税抜0.9%)の率を乗じて得た額とします。 [実質的信託報酬 信託財産の純資産総額に対し年1.6%±0.3%(概算)] ※当ファンドは他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。
その他の費用等	当ファンドに組み入れるファンドを売買する際に発生する売買委託手数料及びこれにかかる消費税相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。 ※実費の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。